



平成 21 年 9 月 21 日
独立行政法人国立科学博物館

企画展「絶滅危惧植物展」開催について

独立行政法人国立科学博物館筑波実験植物園(園長:加藤 雅啓)では、来る10月2日(土)から10月11日(月・祝)まで、企画展「絶滅危惧植物展」を開催いたします。

現在、日本に自生する植物約 7,000 種類のうち、約 1,700 種類が絶滅の危惧に瀕しています。しかし、日本の絶滅危惧植物についての現状や関わる問題点などは一般の方々に十分に理解されているとは言えません。

今回の企画展では、絶滅危惧植物の展示、関連するパネルの展示を行います。また、講演会「絶滅危惧植物と生物多様性」、「隠れた絶滅危惧植物たち」、そして公開シンポジウム「ポスト COP10 の植物多様性保全」を開催します。また、日本の絶滅危惧植物の植栽展示と系統維持を兼ねた当園の絶滅危惧植物コーナーのリニューアルオープンを行います。

なお、本件につきましては別紙にて詳細を添付いたしますので、ご参照下さい。
よろしくお願い申し上げます。

本件についての問合せ

独立行政法人 国立科学博物館

筑波地区事務部 総務担当：中嶋 まさ枝

担当研究員：國府方 吾郎（植物研究部多様性解析・保全グループ）

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

TEL:029-851-5159 FAX:029-853-8998

E-mail: mnakajim@kahaku.go.jp

国立科学博物館HP <http://www.kahaku.go.jp/>

国立科学博物館筑波実験植物園HP <http://www.tbg.kahaku.go.jp/>

企画展「絶滅危惧植物展」概要

1. 名 称 企画展 「絶滅危惧植物展」
2. 主 催 国立科学博物館筑波実験植物園
3. 協 力 ミュージアムパーク茨城県自然博物館・(社) 日本植物園協会
4. 期 間 平成 22 年 10 月 2 日(土)から 10 月 11 日(祝・月)までの 10 日間
※期間中休園なし
開園時間 9:00～16:30(入園は 16:00 まで)
5. 場 所 国立科学博物館筑波実験植物園

6. 展示の構成

①パネル展示

- ・企画展挨拶概要
- ・絶滅危惧植物とは
- ・日本の絶滅危惧植物の現状
- ・書籍展示 (都道府県 RDB, IUCN の RDL, 植物園協会書籍等)

○絶滅危惧植物保全活動の紹介

- ・筑波実験植物園
- ・関連団体・機関
- ・その他

②植物展示 屋外展示 植物 200 点

- ・絶滅危惧 園内展示植物マップ
- ・絶滅危惧 園内展示植物アクセスマップ

③展示植物 屋内展示

- ・ タイワンシシンラン
- ・ タイワンホトトギス
- ・ マツムラソウ
- ・ マルバハタケムシロ
- ・ アマミアワゴケ
- ・ ナガミカズラなど

7. 展示案内

10 月 11 日(土) 13:30～14:30 担当：國府方 吾郎

8. 関連事業

①植物のここが面白い「絶滅危惧植物と生物多様性」

10月3日(日) 13:30~15:00 演者: 田中法生(筑波実験植物園)

場所: 研修展示館3F 実習室

②企画展セミナー「隠れた絶滅危惧植物たち-新種, 未発表種, 忘れられた種」

10月10日(日) 13:30~15:00

黒沢高秀(福島大学)

場所: 研修展示館3F 実習室

③公開シンポジウム「ポストCOP10の植物多様性保全」

10月4日(月) 13:30~16:00

場所: 研修展示館3F 実習室

※(社)日本植物園協会 植物研究会・保全技術研修会と併催

【テーマ1】 絶滅危惧植物をどのように研究し、どのように伝えるか

絶滅危惧植物を知る、伝える —筑波実験植物園の研究と社会発信—

國府方 吾郎(筑波実験植物園)

日本の生物多様性ホットスポット

—固有植物と絶滅危惧植物から見る—

海老原 淳(国立科学博物館)

【テーマ2】 絶滅危惧植物の野生復帰に向けた技術確立

自生地播種を用いた野生復帰

遊川 知久(筑波実験植物園)

カララノギクの自生地播種

倉本 宣(明治大学)

植物園が取り組む持続的野生復帰モデル

—コシガヤホシクサを例に—

田中 法生(筑波実験植物園)

9. 入場料 通常の入園料(一般・大学生 300円、高校生以下・65歳以上無料)
団体割引(20名以上) 200円

10. 交通案内 <<車>> 常磐自動車道 桜土浦 I.C. から北(筑波山方面)へ約8km。
<<電車・バス>> つくばエクスプレス「つくば駅」より関東鉄道バス
「テクノパーク桜循環」行きにて「筑波実験植物園前」下車、徒歩3分。

「絶滅危惧植物」

環境省や各都道府県、市町村が近い将来に絶滅の恐れがあると判断した植物。2007年に環境省がまとめレッドリストによると、日本に自生する約7000種類の維管束植物のうち、絶滅危惧植物(絶滅種と準絶滅種を含む)として1,700種類(約24%)が指定されている。これは日本では4種に1種の維管束植物が絶滅の危機に瀕していることを示している。

最も多くの絶滅危惧植物を含む植物グループとしてはラン科が挙げられる。これはラン科の鑑賞用価値が高く、商業目的などの盗掘が1つの要因になっている。また、絶滅危惧植物が最も集まる地域としては琉球列島、小笠原、日本アルプスの高山帯などがある。



台湾シシラン(イワタバコ科)

Lysionotus apicidens

絶滅危惧ランク: 絶滅危惧 I A 類(CR)

1993年、沖縄島本部半島の米軍施設が返還されたときに行われた植物調査によって発見され、日本にも分布すること初めてわかった。



ナガバハグマ(キク科)

Ainsliaea oblonga

絶滅危惧ランク: 絶滅危惧 II 類(VU)

琉球列島の溪流沿いに生育する。葉を細くして受ける川の水圧を低くするように適応分化した溪流沿い植物。林床に生育し、幅の広い葉をもつオキナワテイショウソウの近縁種。



イワギリソウ(イワタバコ科)

Opithandra primuloides

絶滅危惧ランク: 絶滅危惧 II 類(VU)

近畿以北から九州にかけて分布する一属一種のイワタバコ科。日本の固有属。山野草的な価値が高く乱獲によって絶滅の危機に瀕している。